

令和3年度 安曇野市生涯学習推進市民会議概要

1	審議会名	安曇野市生涯学習推進市民会議
2	日 時	令和3年7月8日(木) 午後1時30分から3時30分まで
3	会 場	安曇野市役所 大会議室
4	出席者	幅修一委員(会長)、高橋みち子委員(副会長)、山崎浩委員、鳥羽將司委員、 荻原義重委員、柿本豊委員、筒井年恵委員、千國寛一委員、猿田みさ子委員、 山崎敦子委員、丸山明男委員、浅見郁子委員
5	市側出席者	平林教育部長、危機管理課土屋係長、人権男女共同参画課財津課長補佐、 地域づくり課児玉課長補佐、環境課丸山係長、長寿社会課新保課長補佐、 長寿社会課大堀係長、子ども支援課高橋係長、健康推進課久保田副参事、 文化課三澤係長、文化課逸見係長、文化課奈良澤係長、生涯学習課深澤課長 生涯学習課遠藤係長、生涯学習課杉浦係長、生涯学習課臼井係長、 生涯学習課塩原係長、生涯学習課中村主査、生涯学習課青沼主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和3年7月21日

協 議 事 項 等

会議概要

- 1 開 会 高橋みち子副会長
- 2 あいさつ 幅修一会長、平林教育部長
- 3 協議事項
  - (1) 第2次安曇野市生涯学習推進計画に係る令和2年度各施策の実績
  - (2) 第2次安曇野市生涯学習推進計画に係る令和3年度施策指標及び成果指標
- 4 その他
- 5 閉 会 高橋みち子副会長

協議事項

(1) 第2次安曇野市生涯学習推進計画に係る令和2年度各施策の実績《各課から説明》

【委員】

コロナ禍の状況でも、各地で災害は起こっており、自主防災活動など工夫しながら開催して頂きたい。

【事務局】

感染がない訓練を研究してできるだけ回数を実施していきたい。

(2) 第2次安曇野市生涯学習推進計画に係る令和3年度施策指標及び成果指標《各課から説明》

【委員】

昨年の熊本県球磨川の水害では、要配慮者利用施設入居者の避難が遅れ、多くの人が亡くなった。安曇野市にも河川の脇に要配慮者利用施設があり、避難計画はどのようになっているのか教えて頂きたい。

【事務局】

各施設において避難計画を策定している。また、避難情報のうち要配慮者などに避難を呼びかける「高齢者等避難」が警戒レベル3で発出される。主に水害を想定しているが、情報をキャッチし、早い段階で避難情報を流し、施設利用者がすぐに避難できるようにしたい。

【事務局】

協力の要請があれば連携して対応したい。

【委員】

ICT関連講座について、新型コロナウイルスの予防接種を予約しなければならないが、高齢者にとってLINEで予約を取ることは難しい。その点、高校生は使い方を良く知っており、市内の高校生と連携してICT講座について考えていけば良いのではないかと。

【事務局】

本年度事業はある程度決まっているため、来年度以降5公民館で検討したい。

【事務局】

非常に有意義なこと。地域と高校との連携という観点からも大事な視点なため、参考にさせて頂きたい。

**【委員】**

「明科いいまちつくろう会」では、高校生にスマホの扱い方などを教えてもらうシニアを対象とした講座を、8月に3回ほど計画していたが、高校から技術的な指導は求めないことと夏は生徒が多忙なため冬での実施について要望を受け、計画を見直している。

**【委員】**

新総合体育館について、10月に竣工されるため、今後は体育館の活用について考えなくてはならない。

**【事務局】**

供用開始は令和4年1月を予定しており、その間オープングセレモニーを実施する予定である。準備期間に効果的な運用ができるように協議を重ねていきたい。

**【委員】**

個人的な考えかもしれないが、新総合体育館のネーミング「ANCアリーナ」の「ANC」について、どんな意味があるのか教えて頂きたい。

**【事務局】**

あづみ野テレビ株式会社(Azumino Network Community)の愛称である。

**【委員】**

コロナ禍における避難所について、ダンボールで囲いを作るとか、テントを張るとか、家族毎の対応を想定しているようだが、安曇野市の場合どの程度までそのような設備があるのか。

また、地区防災会へも周知しなければいけないのではないかと。

**【事務局】**

予めアナウンスしなければいけなかったと感じているが、備蓄としてファミリールームというテント型のものが200程度ある。現状、コロナ対策を講じた避難所開設については、そのテントを用いて世帯毎に避難して頂くこととなる。もし、感染者・濃厚接触者の方と避難された場合、別室に避難所を設け、トイレや通路等配慮した避難所運営を行っていきたい。

**【委員】**

地域文化祭について、昨年開催できなかった地域も含め、世代を超えて学んだことを発表の場とする工夫をしながら開催して頂きたい。

**【事務局】**

今現在は実施する方向で進んでいる。

**【委員】**

生涯学習とSDGsの関連についてどのように考えているのか伺いたい。環境問題について、電気や水道などの節約を子どもへ伝えたい。環境フェアは小・中学生が参加しており、開催されればそれなりの成果が上がるのではないかと考えている。

**【事務局】**

今回は中止したが、代替プログラムで巡回展を計画しており、SDGsを目標にして開催する。実行委員会ではこれから詳細について詰めていくが、意見があれば参考にして施策に取り入れたい。

**【事務局】**

大事な視点だと思う。「拾ヶ堰クリーン大作戦」は、下流の堀金小学校にも輪を広げている。また、令和3年6月議会で同じ趣旨の「水は大切な資源で、学校の水洗蛇口を自動化したらどうか」という提案を頂いている。今は一般的に、ひねる蛇口とレバー式の蛇口が半々くらいの割合で付いており、自動化すれば物理的な水の節約にはなるが、子ども達にしっかり蛇口を閉める、あるいはレバーを止めるということを教えることが、節水への意識に結びついていき、そういったことを題材として節水の教育を進めていきたいと答弁した。こういった心がけをする子ども達がこの地域で育っていくということ自体が、SDGsの本旨にかなうものであると理解している。

**【委員】**

健康づくり推進員の活動拡充について、45回以上90人以上という数値目標は、安曇野市45地区でやるということか。

**【事務局】**

各地域に健康づくり推進員が推薦されているので、地区毎に学習会を開催したりしている。現状89の方が委嘱されているが、できない地域もあるため、45回くらいを目安にしている。

**【委員】**

できないところはどんな活動をしているのか。

**【事務局】**

できないところは、健康課題について学ぶ取り組みを行っている。例えば、どのように生活習慣病を予防し、重症化を防ぐのかということなど。まず、自分自身が実践し、それを家族や地域に伝えるということを目的としている。また、全体会で学習したり、5地域の地域会で学習したりして、各地区にそれを還元するというも行っている。

**【委員】**

これから人口減少超高齢化社会に向かっていく。健康で高齢になることがこれからも社会の中で非常に大きな問題である。健康推進員の活動が見えてこないと感じていたが、回覧で健康情報を配信するなど工夫して活動を実施する地区もあるとのことで、取組には大きく差がある。

**【委員】**

「レファレンス」という意味を教えてください。

**【事務局】**

「参考業務」という日本語訳をしているが、いわゆる調べものとか資料提示のことである。利用者からの依頼に対して、提示させて頂くというもの。「レファレンス」という単語が一般的ではないので、注記等を付けさせて頂くべきだった。

**【委員】**

重点に設定されていない項目もある。計画作成時から4・5年経過しており、見直したらどうか。

**【事務局】**

65の項目のうち、毎年25ぐらいを重点として設定している。取り組むべきものは重点として掲げていき、後期の計画で内容の見直しを行いたい。